

平成 20 年 4 月 9 日

北アルプス広域連合
連合長 牛越 徹 殿

白馬新ごみ処理施設を考える連絡協議会
会長 宮田 温巳
(399-9301 北安曇郡白馬村北城 11020)

住民説明会における活断層確認調査報告内容に関する意見書
—私どもの見解—

3月17日に、北アルプス広域連合が白馬村内で実施した説明会では、当会の2月20日付け要望書2項「確認調査結果については、分析責任者からの住民向け説明会を行なってください。」の要望を取り入れてくださったことを喜ばしく思います。しかしながら、1項「確認調査の分析が、複数以上の研究者によって行なわれるようにしてください。」については、山岳科学総合研究所内の動きを含めて具体的な説明がなかったことは大変残念なことです。

その点を含め、その日行なわれた説明会の内容について、私どもの見解を下記のようにお伝えします。今後のごみ処理施設建設候補地問題の賢明な解決に向けて、この意見を尊重していただきたく宜しくお願い致します。

なお、2) 3) については質問を含んでいますので、2週間を目途に当会宛に文書でご回答いただきたくお願い致します。

記

1) 原山教授の説明によって、候補地飯森にごみ処理施設を建設することの危険性が一層明確になりました。

特に神城断層の位置が特定され、「一旦ひずみが起これば、M. 7~8クラスの巨大地震が発生する」と予告されたことは、候補地直下に副断層が延びていないという事実を無意味なものにしています。

2) 研究所の分析結果を受けて、「広域連合はどのような対応策を考えているのか」が全く見えない説明会でした。行政に対する質問が出なかったら、原山教授との質疑だけで説明会を終了させる予定だったことは明白で、そうした広域連合の主体性の欠如は出席した多くの住民を失望させました。

そこで、「原山教授の説明によって住民の不安の一つを取り除くことができたと考えるのかどうか。今後の説明会をどうするのか。」の2点について、きちんと説明してください。

3)前文で触れた2月20日付け要望書1項に関連して、山岳科学総合研究所内で原山教授以外に分析に関わった担当者は誰なのかを調査して明らかにしていただきたい。また、同じデータを以って、他の研究者もしくは他の研究機関に分析を依頼するお考えはないのかをお尋ねします。

4) 賛否の意見交換の場ではないのに、飯森への建設に賛意を表した住民の発言がありました。会場を去る前に連合長はその住民に、「ありがとうございました」と声をかけたと伝えられていますが、事実とすれば認識不足もはなはだしいと言わざるを得ません。公の場での言動については厳に慎んでいただきたいと思えます。

以上

*参考にしていただきたく、4月5日付の原山教授宛への公開質問状を添付しました。